

61th Annual Meeting of American College of Sports Medicineにおける研究発表

居石真理絵

はじめに

2014年5月27日～31日に、アメリカ合衆国フロリダ州オーランドにて、61th Annual Meeting of American College of Sports Medicine（第61回アメリカスポーツ医学会大会：以下、ACSM）が開催された。ACSMは、sports medicineおよびexercise scienceに関する世界最大の学会であり、年に1度Annual Meetingを開催している。その大会において、我々の研究成果の一部を発表する機会を頂いたので、ここに研究発表の概要について報告する。

ACSMでは、数多くのシンポジウムや発表が行われた。テーマも非常に多岐にわたり、各国から集まった参加者たちが、熱心にプレゼンテーションに耳をかたむけ、ディスカッションを行った。私は、トレーニング、パフォーマンス、高所および低酸素など、自分の研究テーマに関連するセッションを中心に選択し、参加した。中でも興味深かった内容は、Dr. Benjamin D. Levineによるシンポジウムであった。Living High: A History of High Altitude and Sports Medicineという題で行われたシンポジウムにおいて、Dr. Levineが高所トレーニングの研究に取り組んできた、今日までの長年にわたる活動について紹介された。Living-high training-lowの有用性について証明し、現在の高所および低酸素トレーニングに関する研究の基礎とも言えるDr. Levineの成果は、多くの試行錯誤や失敗の上に成り立ったものであり、一つのテーマに対して取り組み続けることの重要性を感じることができた。

研究発表について

私は今回、「Short-term hypoxic exposure and training

improve anaerobic capacity in long sprinters」というテーマでポスター発表をした。私が研究テーマとしている短期間（1週間以内）の低酸素トレーニングに関する研究の一つである。ポスター発表の時間内に、数多くの研究者とのディスカッションを行うことができた。なぜパフォーマンスが変化するのか、というメカニズムについての質問が多く、現状はメカニズムにまで踏み込むことができていないものの、今後の課題として取り組んでいかなければならないと感じた。また、低酸素施設に馴染みのない国の研究者からは、どのような施設なのか、という質問もあり、今後のプレゼンテーションの際にはもう少し詳細な情報を記載する必要があるのだということにも気づいた。多くの研究者とのディスカッションから、今後取り組むべき課題などにも気づくことができ、とても有意義な発表であったと感じている。

終わりに

今回、国際学会での発表を初めて経験することができ、たくさんの刺激を受けることができた。私の研究に対して興味を持ってくれる研究者がたくさんいて、多くのディスカッションができたことは、今後の活動の糧になるものであったと感じている。海外の研究者たちと情報交換することの重要性を感じた。今後もできるだけ国際学会での発表を行い、研究の質をより高めて行きたいと思っている。

最後になりましたが、本学会への参加に際して、ご理解とご支援いただき、貴重な経験をさせていただいたことに対して感謝いたします。ありがとうございました。